

米国のFRB(連邦準備制度理事会)は2024年12月17～18日に開催されたFOMC(連邦公開市場委員会)で、政策金利(FFレートの誘導目標)を0.25%ポイント引き下げ、政策金利のレンジを4.25～4.50%としました。今回の利下げ幅が前回11月と同じ0.25%ポイントであったことは市場の想定通りとなりましたが、今後について、FRBが「タカ派」になったことに驚かされました。

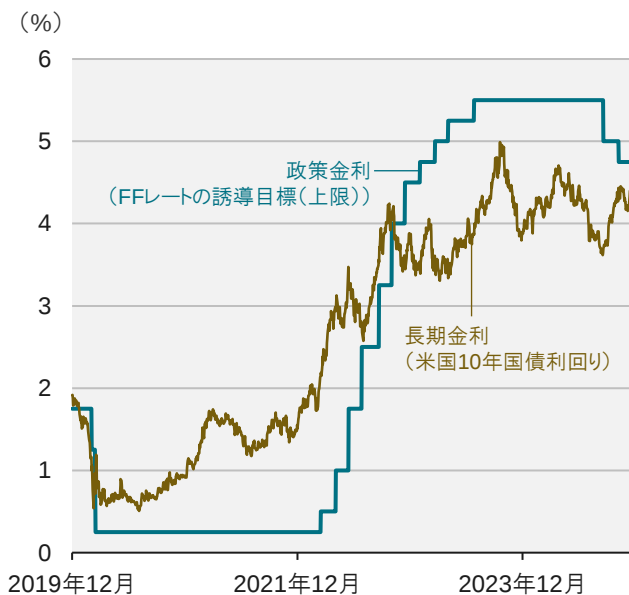
市場で注目されるドット・チャート(FOMCメンバーが予想する政策金利の見通し分布図)において、2025年の利下げ回数が、前回9月時点の年4回(1回あたり0.25%ポイント程度)から年2回となり、合計0.5%ポイント程度と緩和スピードを大幅に下げる見込みに変わりました。市場では2025年の利下げは3～4回程度とみられていただけに、FRBがインフレの再燃を強く懸念していることに驚くこととなり、米長期金利は上昇、米ドル(対円)は米ドル高円安、株安で反応しました。そもそも、FOMC参加者の個人的な見通しを

集めたドット・チャートに注目し過ぎる必要はないと考えますが、FOMC参加者の空気感の変化が市場では予想外でした。インフレ再燃を示す経済指標が見当たらず、FRB自体が政治問題を避けたいと思っているにも関わらず、インフレ的なトランプ次期政権による政策の影響を疑う声も上がりそうです。

2025年の利下げは継続すると考えています。インフレ率などの経済指標次第では、FOMC参加者の空気感が再び変わる可能性はあるものの、市場は、当面の間、思いのほか政策金利の引き下げが限定的であると考えることになるでしょう。また、いずれ市場は長期金利が安定し、米ドル安の方向感に戻るとしても、今回のドット・チャートにより先送りになりました。トランプ次期大統領が就任する2025年1月頃まで様子見の雰囲気が強い中、市場は政治家の発言などを受けて神経質な展開となりそうです。

〔米国の政策金利・長期金利の推移〕

(2019年12月末～2024年12月18日)



〔米国の主な株価指数と米ドル(対円)レートの推移〕

(2023年12月末～2024年12月18日)



信頼できると判断した情報に基づき、日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものであり、将来の運用成果を約束するものではありません。※各株価指数は米ドルベースです。

※指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。